一人になりたくて

ああ一人になりたくて
夕暮れの街から海へ続く道を
何も持たずにただ歩くだけで
気づいた時最後の道を渡っていた

すこしずつ冷たくなって
腕にかけていた上着広げて
両手を伸ばして袖に通す

薄暗くなった砂浜降りて
波打ち際からすこし離れたところ
西の空がまだ明るく
左の耳に感じる波のざわめき

すこしずつ人がいなくなり
一人二人と帰ってゆく中で
寂しくなってまた人恋しくなる